

菰都整発第 2359 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

菰野町長 石原 正 敬



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回 答）

平素から当町の道路事業に対しご指導、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当町におきましては、現在、新名神高速道路（四日市～亀山間）の地元設計協議及び一部においては用地測量の現地作業が実施されており、本事業の更なる推進に全力で取り組んでおります。また、地方道路交付金事業の採択を受けて通学路等における「安全・安心」を図るため、歩道設置などの道路整備事業を進めているところです。

貴職から平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のありました標題の件につきまして、別紙のとおり回答いたしますので、地方が納得できる道路施策となるようお願い申し上げます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

三重県菰野町

今日の道路行政は、道路特定財源の一般財源化に象徴されるように地方行政においても大きな転換期であると痛感しています。しかしながら、地方における道路整備は従来どおり必要とされており、今後の道路整備に対する財源措置を一刻も早く確立し、地方にとって不可欠な道路が整備されるよう要望します。

道路整備関連の無駄の排除の論議や道路特定財源の一般財源化の動きの中で、地方からも意見を述べ、地方の実情や財政難に関しても訴えてましたが、広く国民に対して円滑な周知が行なわれたかは疑問に感じているところです。その原因としては都市部と地方部の道路の整備水準や道路整備に対する意識の違いが存在するからと推察しますが、さらに地方の実情や声が理解されるよう工夫をいただきたい。

地域において効率的、効果的な道路整備が進捗してきたと感じられるものの、安全・安心を求める住民からの道路整備に対するニーズは依然として続いており、多様化もしております。地方からの一本一本の道路に対する要望、地方からの声を十分にご理解をいただき、新たな制度の検討をお願いし、道路に対する国の方針が地方が納得できるものとなることを望むものであります。

また、高規格幹線道路の整備については、地域の活性化等に寄与するものと考えており、引き続き進捗を図られるよう要望します。

②－１ 地域の現状と抱える課題

三重県菰野町

当町においては、高規格幹線道路の整備がこれから進捗していくことになり、それに伴う交差道路をはじめ、インターチェンジへのアクセス道路などの地元からの要望も多様化しており、高規格道路の完成までに周辺道路の整備に係る財源確保が必要となってくることに加え、近年、既存道路の維持管理についても財政負担が大きくなっている。さらに道路施設の老朽化も深刻化することが予想され、橋梁の長寿命化などの施策が今後の道路施設の維持管理を行なう上で必要になってくる。

維持管理費の削減につながるような既存の道路施設のメンテナンスに係る事業メニュー、施策の検討が必要である。

幹線道路からの大型車両等が地域の生活道路に流入したり、渋滞箇所を回避した車両が通学路に迂回し、歩行者や自転車交通にとって危険となることから、生活幹線道路において歩道設置や交差点改良を行い、地域住民が安心・安全に通行できるような道路整備が必要である。また、バイパス道路を整備することにより、通過交通を処理することも必要となっている。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

②-2 地域の目指すべき将来像

三重県菰野町

新名神高速道路の開通により当町の位置する三重県北勢地域は、中部圏と近畿圏をつなぐ要衝となり、物流や人流のさらなる進展が期待されます。当町においては、新名神高速道路の菰野インターチェンジの設置により多様な都市との交流が期待できることから、インターチェンジ周辺を町の新たな玄関口と位置づけ、都市機能の集積を進めるとともに、湯の山温泉をはじめとした豊かな観光資源、鈴鹿国定公園や田園風景など良好な自然環境を活用した自然と人が共生するにぎわいと活力のあるまちづくりを目指します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

三重県菰野町

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他
◆生活道路の安全確保	◆歩道等の新設、道路拡幅事業 (地方道路交付金事業)	◆歩車道を分離することにより、歩行者や自転車交通の安全が確保できる	
◆インターチェンジへのアクセス道路の整備促進	◆インターチェンジの連結路線として地域高規格道路等の広域ネットワークの確立	◆インターチェンジから観光産業拠点等へのアクセスの向上	
◆高規格道路周辺整備	◆側道を連続させる道路整備、交差道路の整備	◆周辺の生活道路の利便性、安全性の向上 ◆高速道路事業と一体的に整備することによるコストの縮減	